

令和5年度第1回大磯町消防審議会 結果概要

- 1 日時 令和6年3月8日（金）午後1時30分～2時20分
- 2 場所 大磯港賑わい創出施設2階会議室
- 3 出席者 小泉隆史会長（大磯町区長連絡協議会会長）、山崎伸一副会長（前平塚市消防本部消防長）、土方正美委員（大磯町消防団長）、松尾明美委員（大磯町消防団員）、鈴木實委員（大磯町自主防災組織連絡協議会会長）、浦田福代委員（公募町民）
- 4 事務局 加藤敦（消防長）、古正幸司（消防総務課長）、柏木利行（消防総務課副課長）、竹内愛純（消防総務課消防総務係長）
- 5 傍聴者 5名
- 6 議題
 - (1) 消防庁舎の再整備について
 - (2) その他
- 7 議事
 - (1)事務局より資料に基づき説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答があった。
 - 意) 耐震診断の結果と費用が出ているが、補強をしても恒久的なものではない。今の消防庁舎だと隊員の環境整備も含めてリフォームしても現状の容積しかないので建替えすることを望む。(委員)
 - 意) 県の土地のためいつまで借りられるかもわからない。(委員)
 - 問) 建替えの場合の費用は。(委員)
 - 答) 1,300㎡位の建物を想定していて約10億円です。小田原市、厚木市の庁舎見学の際に聞き取りで、土地は別で建物だけの価格、1㎡当り50～60万円です。(事務局)
 - 意) 参考に載せた方がわかりやすい。(委員)
 - 意) 私も耐震補強だけでこの費用だと建替えの方が良い。平塚市の場合も耐震補強をすると建替え費用の半分位かかり、20年しか持たないと考えると広い土地でもっと隊員も確保して将来を見越していただきたい。(委員)
 - 意) 現在訓練場所もなく場所を借りて訓練をしている状態である。(委員)
 - 意) 現地で建替えだと仮設庁舎となり、運用に支障をきたさないよう移転建替えが良い。(委員)
 - 問) 土地の大きさは決まっているのか。(委員)

答) 訓練施設等を含めると 2,500 m²位が必要になるかと考えております。(事務局)

意) 平塚市は本署の前で少し訓練ができるが、大野出張所に新たに用地を確保し集約している。訓練棟も建てて分団も消防職員も訓練ができるメリットがある。後から敷地は大きくできない。(委員)

意) 大磯町、二宮町の分団も訓練で大野出張所の施設を借用した経過がある。放水訓練ではロングビーチ駐車場を借りて行っている。(委員)

事) 平塚市の本署は敷地面積 1,430 m²、建物は延べ床面積 1,991 m²です。(事務局)

意) 能登で地震があり関心が高い時期である。また今後の地震も騒がれている状況なため現状の建物だと心配である。(委員)

問) 改修の場合、何年使う想定なのか。(委員)

答) 長寿命化を含めて 20 年くらいです。(事務局)

意) 改修に費用をかけるなら施設の改善も考えなければならない。広い訓練施設も必要である。職員を目指す人も充実するのではないか。(委員)

意) 場所をどこにするかが問題である。(委員)

意) 町民のみんなの納得を得られる町の中心がベストだと思うが、今は東寄りになっている。(委員)

意) 低い場所への建替えは浸水等で危険である。(委員)

意) 昔のジョンソンの場所は津波の浸水の可能性がある。西小磯のトンネルの東側は国道が使えなくても出動できるし津波も来ないが農振がネックである。(委員)

事) 今日は方向性を決めていただいて、今後方向性が決まってから場所の選定を進めていく予定です。事務局で想定する町の中心で 2,000 m²位の土地だと、宅地は難しく、農地や空地で用地を見つけて移転建替える想定をしている。農業振興地域は規制があるため県と相談が必要となり、引き続きご意見をいただければと考えております。(事務局)

意) 署を町の中心にすると分署は不要となるのか検討を。(委員)

意) 統合した場合、今の職員数でも効率的に行えるのか検討を。(委員)

意) 神奈川県下消防相互応援協定があり、場所が今の場所から西へ移転しても影響はないので移転をした方が良い。また、指令装置はリースで数千万円かかる。(委員)

意) 町民の命や財産を守るための施設であるため役場庁舎より先に建替えすべき

ではないか。(委員)

意) 実際に救助に行くのは消防と消防団である。ある程度魅力ある施設にしないと職員採用の面でも困ることになる。現在仮眠室も個室が通常であり、

個室でない施設は少数である。早急に対応した方が良いのではないか。(委員)

結論 移転建替えの方向性で、意見がまとまり審議会として答申書を大磯町長に提出することとなる。

(2) その他

意見等なし

以上